

海部南部水道企業団 耐震整備の状況

☆ 配水場の耐震化状況

H31. 3. 31現在

配水場名	管理本館	ポンプ所 (ポンプ所能力)	配水池 (配水池容量)	備 考
佐屋配水場	○	○ (16,900 m ³)	○ (14,705 m ³)	※
弥富配水場	○	○ (30,000 m ³)	× (23,170 m ³)	管理本館・ポンプ室 耐震補強対策済
立田配水場	○	○ (12,500 m ³)	× (2,300 m ³)	管理本館・ポンプ室 耐震補強対策済
立田受水場 (受水池)		—	△ (7,700 m ³)	液状化対策済 (サンドコンパクション工法)
耐震施設率	100. 0%	100. 0% (59,400/59,400 m ³)	30. 7% (14,705/47,875 m ³)	

※ 佐屋配水場……平成 4 年度から稼働している佐屋配水場設備は、水道施設耐震工法指針で定めるレベル 2、ランク A の耐震基準（震度 6 強～7 以上）を満たしています。

今後の事業計画

- ・ 今後、立田・弥富配水場配水池の耐用年数の経過等を踏まえ、耐震補強又は更新を順次進める予定です。

☆ 管路の耐震化状況

H31. 3. 31現在

管 路	管路総延長	耐 震 管 延 長 ※			耐震化率	
		内 訳	内 訳	内 訳		
全 管 路	872.7km	107.9km	内 訳	ダクタイル鋳鉄管 (KF・SⅡ・NS・GX)	26.6km	12.4%
				鋼管(溶接継手)	6.7km	
				ポリエチレン管 (熱融着継手)	74.6km	
うち基幹管路 (φ250以上)	104.4km	26.7km	内 訳	ダクタイル鋳鉄管 (KF・SⅡ・NS)	20.5km	25.6%
				鋼管(溶接継手)	6.1km	
				ポリエチレン管 (熱融着継手)	0.1 km	

※ 耐震管とは、導・送・配水管における耐震型継手を有するダクタイル鋳鉄管、鋼管及び水道配水用ポリエチレン管（高密度）をいうものです。

現在行っている事業

○ 老朽管(塩化ビニル管)更新事業

この事業は、耐震性の低い接着接合による継手を有する経年塩化ビニル管の更新を、平成25年度から平成39年度の15年間、口径50mmから150mm、延長108.5km、総事業費41億81,031千円で施行するものです。

今後の事業計画

- ・ 今後は、経年ダクタイル鋳鉄管の耐震管への更新を順次進める予定です。